

あけましておめでとうございます

埼玉県サイクリング協会
会長（県議会議員）長沼 威



今年は、私にとりまして埼玉県サイクリング協会の会長に就任して最初の年であり、決意も新たに新年を迎えることになりました。

S C Aも創立50周年を迎え、これまでの永きに亘る輝かしい活動は誰もが高く評価しているところです。しかしながら50年の間には、さまざまな試練や困難もあったと思われませんが、そういう局面を乗り越えて現在に至ることが出来たのも、役員の方々のチームワークと粘り強い努力であり、何よりもサイクリングを愛する気持ちだったというのは想像に難くないところです。

昨年度まで浜田卓二郎先生に会長を務めていただきました。先生のこれまでの功績に併せて心より感謝申し上げます。

新春には走り始めとして第20回新春サイクリングが行われます。これが私の会長としての新年初めての仕事になりますが、多くの参加者を得て盛大に開催されることを期待しています。

最後に、私は今後、サイクリングの振興と協会の発展に必要な環境整備、会員拡大、県内における大きな大会の実現に向けて微力ではありますが、全力を尽くすつもりでありますので、何卒ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

サイクルOL大会終わる

第18回県民総合体育大会サイクルOL（オリエンテーリング）大会が11月13日、伊奈総合学園高等学校を主会場として開催された。紅葉が美しい季節であったが、参加者は景色より、地図とのにらめっこが続いたことだろう。今回も事故もなく無事終了することができたのは参加者のおかげと感謝している。

サイクルOL大会結果（敬称略）

一般：ポイント10、距離約42km シニア：ポイント10、距離約38km

1位 安達 将芳	1位 須田 保
2位 小池 章之	2位 前島 康徳
3位 斉藤 信浩	3位 土井 智行



おめでとう！！

11月23日、平成17年度埼玉県レクリエーション大会in越谷の開会式が越谷サンシティにて開催された。永年レクリエーションに功労のあった方に贈られる功労賞で、協会の岩淵可浩さんが受賞しました。おめでとうございます。これからも協会のためにご尽力ください。



< イベント案内 >

新春サイクリング案内

新年の走り始めの気軽なサイクリングです。皆さまの参加をお待ちしています。

日 時 平成18年1月15日(日)、10時～

集 合 見沼元坝(もといり)公園駐車場(行田市)

コ ー ス 見沼元坝公園～利根川自転車道～刀水橋～妻沼・聖天山(往復)

申 込 平成17年12月21日(水)迄に事務局まで

そ の 他 当日受付をします。SCA会員以外の方は傷害保険料をいただきます。

乗れない人の自転車教室

主 催 さいたま市レクリエーション協会

主 管 さいたま市サイクリング連盟

後 援 埼玉県サイクリング協会、さいたま市教育委員会、地域総合型スポーツクラブこまば

日 時 平成18年3月12日(日)9時～16時 *予備日3月19日

会 場 与野本町公民館、与野公園

参 加 費 500円(資料、保険代)

持 ち 物 手袋、自転車(持ってこられる人、子供車はなるべく)、昼食

対 象 小学生～60歳までの人(小学3年以下は親の同伴を必要とします)

日 程 受付:9時 開講式、ビデオ鑑賞、実技、昼食、実技 閉講式:16時

申 込 先 埼玉県サイクリング協会に参加費(郵送の時は小為替で)を添えて申し込んで下さい。

申込期日 3月4日(土)～ 定員になり次第締め切ります。

そ の 他 さいたま市レクリエーション協会の主催事業なので「さいたま市」の方を優先します。
自転車をお持ちの方は事前に連絡下さい。

都合で参加できなくなった場合はキャンセル待ちの方がいますので早めに連絡して下さい。

埼玉県青少年団体連絡協議会研修会・交流会

日 時 平成18年1月28日(土)17時～21時

会 場 ワシントンホテル「プリムローズ」

内 容 講演:穂坂邦夫氏「青少年を健全に育てるための地域のあり方」
交流会:加盟団体の懇親

交流会参加費 5,000円 *研修会は無料です。

そ の 他 研修会受講希望の方/交流会参加希望の方は1月11日までに事務局に連絡下さい。

事務局だより

平成18年1月～3月、事務取扱は毎週水曜日(10:00～16:00)、第1・3土曜日(13:00～16:00)

平成18度の会員受付は3月から行います。協会の申込用紙かJCAから郵送される申込書で申し込んで下さい。

会費は郵便振替か小為替(指定者の欄は書かない)で納入して下さい。

書留での郵送はご遠慮下さい。郵便振替 00170-8-56228

《編集後記》

悲惨な事件や信じられない偽装事件が多発している。もっと人を思いやる気持ちがあったら防げたかもしれない。人との競争に勝ち残った人はその地位を失わないために保身にかかる。苦言をいう人を退け、わが身を守るために次から次と手段を変えエスカレートしてくる。こんなことが日常茶飯事に起こるのは、まったく由々しいことだ。原点にもどり、もっと人を愛さなければどんな世の中になっていくのだろうか。未来を担うこども達の見本となるためにも。